



- 1木製すだれ「Fores」 2思いを語る井上義弘社長  
 3神社に掛けられた御簾 4平成16年に開設した「すだれ資料館」  
 5すだれの裁断作業の様子

造

# かわちながの ものづくり探訪

Made in Kawachinagano

7

作 創

## すだれの伝統を守りながら 創意工夫で活路を拓く 井上スダレ株式会社

上質の真竹が多く、江戸前期に京都から製法が伝わって、すだれ製造が盛んになった南河内地域。その中で、井上スダレは大正5年の創業以来、国の伝統的工芸品に指定されている「大阪金剛簾」を守り育てながら、現代風にアレンジした新たな製品の開発に力を入れています。「シルクロード」を通じて伝わってきたすだれ文化を、今度は日本から世界へ発信していきたい。5代目・井上義弘社長は意気込めます。

同社のショールーム「簾館」に展示されているすだれ製品。

「源氏」の名称で展開している伝統的なすだれはその一つで、神社仏閣用の御簾や、ひご作りにから編み上げまでをすべて手作業で行う亀甲簾は、近く天野山金剛寺をはじめ、各地の寺院に多数奉納されています。他にも、木目の美しさを表現した製品「Fores」など、現代の空間に合わせた多彩なすだれがずらりと並んでいます。

この「すだれ部門」と並ぶ同社のもう一つの事業が水道管継手を開発・製造する「金属加工部門」。昭和48年に粉体塗装事業を開始してからは、東尾メツクの協力工場としても発展を遂げてきました。

他社との差別化を図るため、両部門の製造機械はすべて自社で開発。さらに、技術や商品の開発体制を強化することで「商品化や品質改善のスピードアップを実現できた」と井上社長は胸を張ります。こ



### 井上スダレ株式会社

1916年創業、1962年設立  
<http://www.sudare.co.jp/>  
 ■すだれ資料館を併設（完全予約制）  
 歴史や伝統的な製造法などを資料で紹介。  
 月～金曜日午前10時～午後4時開館（祝休日などを除く）天野町1014-1 ☎53-1336  
<http://www.sudare.com/>

れまでも独自の技術力で、難しいとされる木製・竹製すだれの防炎加工や、独自の特許技術で長期間の使用でも反らない木製品の商品化に成功するなど、革新的な製法を取り入れ業界をリードしてきました。

「今後はすだれを照明と組み合わせるなど、建材やオブジェとしても提案できれば」と井上社長。すだれ文化の継承と発展にかけるといふ思いが新たな製品を生み出す原動力になっています。



◀すだれと照明を組み合わせたオブジェ